

緑化だより

No.118 平成28年7月号



コマチゴケ

- | | |
|------------------|------------|
| ○ 季節の花(リョウブ) | ○ 研修会のご案内 |
| ○ 野鳥の世界(ゴジュウカラ) | ○ 展示会 |
| ○ 昆虫の話(夏の王者が住む林) | ○ お知らせ・ご案内 |



緑化だより

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <http://ryokka-c.jp> E-mail hiroshima@ryokka-c.jp

季節の花

リョウブ

「いまよりは み山がくれの はたつもり 我うちはらふ 床の名なれや」

能因法師 『能因集 75』

これを訳しますと「これから深山に身を隠す「畑つ守」です。贈って下さったハタツモリ（リョウブ）の一枝は私の一人寝の床の塵を払う名でしようか」となります。能因法師は平安中期の歌人です。27歳のころ、失恋して出家することになりましたが、その別れに際して、恋人からリョウブが贈られました。これは「はたつもり」の歌として最も古いものの一つといわれています。



リョウブの花

古くからリョウブという名もあり、「令法」の漢字が当てられておりますが「はたつもり」という名もあります。その意味は「畑つ守」（畑を管理する人）といわれ、能因法師の歌はその意味で使われています。一方、牧野富太郎博士は白い花がたくさん咲いているのを白い旗が積もっているようだとし、「旗積もり」の説を出しており、これに賛成する人もいます。

7月下旬から8月上旬の暑い日に、涼しさを求めて山際を散策していると、リョウブの花が枝先に10～20cmの房のようにいっぱい広がっています。1個の花は梅の花に似ている白い小さな5弁花ですが、その集まった光景はまぶしいぐらいに賑わっています。

江戸時代に貝原益軒が書いた『大和本草』巻12には、リョウブは飢饉の年に「葉ヲトリ蒸テ食ス」とあり、京都では飢饉の年には売ると書いてあります。「又貧民ハ平時モ煮テ飯ノ上ニヲキ蒸シテ飯ニマセテ食ス味ヨシ」とありますが、若芽を摘んで刻み、混ぜ込む「リョウブ飯」はおいしくなく、米飯に混ぜるなどして増量材の役目であったと思われます。

リョウブの樹皮は薄くはがれ平滑なまだら模様で、サルスベリやナツツバキの幹肌に似て美しい色感です。木としては、あまり大きくならないので、建築材にはなりません、床柱に利用されます。また上質な木炭として使われていました。

リョウブは緑化センターでも普通に見られます。（上村）

野鳥の世界

ゴジュウカラ

ヤマガラ、シジュウカラ、ヒガラ、コガラなどの仲間のゴジュウカラは、スズメくらいの体型で、普段は標高の高い山中で生活しています。針葉樹と落葉樹の混交林を好み、冬期、雪の積もった森林の枯木などにも住み着いています。他の野鳥が餌を求めて里の近くや沿岸部の森林に移動してもゴジュウカラは冬枯れの山に残り、樹木の幹に登ったり、梢から逆さになって樹皮の隙間にクチバシを入れ、隠れている小虫や昆虫の卵を餌にします。時として横枝の下にとまって伝い歩きをしながら

採食することもあります。そのため他の鳥に比べ嘴は長く先が反り返っています。静寂とした冬山でフィー・フィーとよく透る声で鳴くゴジュウカラは安全と安定の証明です。巣作りは平素のテリトリーにある木のうろ(幹の空洞)やキツツキなどの巣穴の跡を利用することが多く、入口が大きい穴の場合には泥を運び積み上げて体のサイズに合わせて作り直して使用する習性があります。



ゴジュウカラ

今年、緑化センターの森で給餌のため餌を運ぶ姿が写真で確認されていますが、標高約 400m 前後の低い森林では大変珍しく、オオアカゲラかアオゲラの巣を利用したものと考えられますが、ゴジュウカラの繁殖の確認は初めてです。(吉見)

昆虫の話

夏の王者が住む林

夏の昆虫といえば「カブトムシ」でしょう。大きな体に立派なツノを持ち、勇敢に戦う姿はまさに「夏の王者」といったところです。

カブトムシはコナラやクヌギなど、落葉するどんぐりの林に生息しています。幼虫は根元に堆積した腐葉土を食べて育ち、成虫は、シロスジカミキリの幼虫などに食害されたこれらの木々が分泌する樹液をなめて生きています。

このような林は、山の木々が人に利用されはじめてから、人為的に残したり、植樹したりしてできた人工林です。木々は薪炭材として利用するために植えられました。木の成長が早く、10 年ほどで薪や炭の原料として利用できるからです。江戸時代、広島県では大量の炭が必要となるたたら製鉄が盛んに行われていたため、炭を作るために多くのコナラやクヌギが必要でした。たたら製鉄が衰退した後も、材は薪や炭などの燃料、シイタケのホダ木として利用し、葉は特産品であった山繭織の糸を採るために、ヤママユを飼うエサとして使われ、落ち葉は腐葉土として田畑の肥料に使われてきました。カブトムシの住む林は人間の生活のために作られたものだったのです。



コナラの樹液をなめるカブトムシ

コナラやクヌギの林は人の手が入ることで、カブトムシの住みやすい環境となっています。腐葉土を作るために集められた落ち葉の中では多くの幼虫が育つことができ、手入れの行き届いた林の木は細く、シロスジカミキリが好み樹液が分泌されます。しかし、近年ではガスの普及や化成肥料の利用により、コナラやクヌギの林は利用されなくなっています。腐葉土は作られなくなり、シロスジカミキリが寄りつかないほどに太く育った木からは樹液が出ることはありません。人間と林との関係が崩れたことにより、自然の中で樹液をなめに来るカブトムシを見ることは難しくなってしまうかもしれません。(広島市森林公園 こんちゅう館 藤井)

研修会のご案内

- | | |
|--|--|
| ○ 7月3日(日)『7月の自然探勝』
夏の樹木や花を観察しよう | 10:00～12:00 管理事務所前 集合
講師：植物研究家 清藤 徹 |
| ○ 7月9日(土)『ボタニカルアート教室』
身近な植物を描こう
※ 要予約・無料、色鉛筆・消しゴム持参 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：広島ボタニカルアート・ソサイエティ |
| ○ 7月10日(日)『夏のきのこ教室』
梅雨にもたくさんのキノコが…
※ 採集用のカゴ持参 | 10:00～14:00 第3駐車場 集合
講師：きのこアドバイザー
川上 嘉章 |
| ○ 7月23日(土)『夏休み竹細工教室』
竹トンボ、うまく飛ぶかな？
※ 要予約(先着30組)、材料費200円 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：三良坂竹工房指導員
諫早 良雄 |
| ○ 7月24日(日)『夏休み昆虫教室』
講師と一緒に昆虫採集します
※ 定員に達したため締切りました | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：技術士(環境部門)
亀山 剛 |
| ○ 7月30日(土)『親子藍染教室』
藍の生葉で綿のハンカチを染めましょう
※ 要予約(先着20組)、材料費500円 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：サイエンス・インストラクター
山縣 圭子 |
| ○ 7月31日(日)『昆虫標本作り入門』
昆虫の標本作りを学びましょう
※ 要予約(先着20組)、材料費1,000円 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：技術士(森林部門)
相良 伊知郎 |

◎ 展示会

場所:レストハウス
(ガラスケース展示)

・手作り小物作品展

～7月20日(水)

・七宝焼作品展「七宝焼同好会」

7月22日(金)～8月21日(日)

(ボード展示)

・ボタニカルアート展

～7月8日(金)

・愛鳥週間原画コンクール

入賞作品展

7月13日(水)～8月7日(日)

♪☆お知らせ・ご案内☆♪

7, 8月の土, 日, 祝日は5時まで開園します



手作り小物作品展より



愛鳥週間原画コンクール入賞作品展より